

下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）の説明

【下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）とは】

下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）とは、肛門より専用の内視鏡を挿入し、大腸全体を観察する検査です。ポリープや癌、炎症などを発見し、診断や治療方針を決定するために行いますが、ポリープについては可能であれば日帰り手術としてその場で切除を行うことも可能です。診断のために粘膜の一部を採取する生検という検査を行う場合もあります。

【検査の準備】

大腸内には普段便が残っているため、準備なしで内視鏡を挿入しても便が邪魔で観察ができません。そのため検査前に大腸内に残っている便を全て出す必要があります（前処置といいます）。

・検査2日前より消化の良いものを摂取していただきます（事前に検査食をお渡ししている場合は前日朝よりそちらをお召し上がりください）。下剤を処方されている場合は医師の指示に従って内服してください。検査前日の夕食後から検査終了までは絶食になりますが、水やお茶、スポーツドリンクなどは摂取していただいて構いません。

・検査当日は絶食でご来院いただき、体調の確認を行った後に大腸検査専用の下剤（腸管洗浄剤）を開始します。（トイレ付きの個室をご用意しております。）2～3時間かけて、便が綺麗になるまで1～2Lの下剤を飲んでいただきます。準備ができましたら検査着に着替えていただき、検査へご案内させていただきます。

【検査に伴う危険性・偶発症】

偶発症とは検査に伴い生じる可能性がある不都合な症状のことです。下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）は安全な検査ですが、検査に伴う偶発症の報告はあります。頻度は低く非常に稀ではありますが、入院加療が必要な場合や生命に危険を及ぼすような偶発症を起こす可能性もあります。考えられる偶発症として、以下のものが挙げられます。

- 1) 腸管洗浄剤による腹痛、嘔気、嘔吐（進行大腸癌が隠れている場合、腸閉塞を起こす可能性あり。）
- 2) 内視鏡の接触や生検、ポリープ切除による出血・穿孔（検査翌日以降を含む。）
- 3) 薬剤によるアレルギー（発疹・呼吸困難・血圧低下・ごく稀にショックや呼吸不全、心肺停止など）
- 4) 検査前からあった疾患の悪化（脳卒中や心筋梗塞など 症状の出ていなかった疾患も含む）

細心の注意を払いながら検査・治療を行ってまいります。万が一偶発症が発生した場合、最善の処置・対応を取らせていただきます。（入院や手術が必要な場合、総合病院へ紹介させていただきます）

【鎮静剤・鎮痛剤使用について】

当院では検査時の苦痛軽減のため、ご希望の患者様には鎮静剤、鎮痛剤の注射（静脈麻酔）を行っております。検査後は院内で少しお休みいただき、歩行や意識に問題がないことを確認後にご帰宅いただきます。検査当日は車やバイク、自転車といった乗り物の運転や、激しい運動などは控えていただくようお願いしており、特に高齢の方はご家族同伴での来院をお勧めしております。また鎮静剤については、普段の飲酒量や内服されているお薬等の影響で、ご期待通りの効果が得られない場合もございます。

鎮静剤による副作用としては、呼吸抑制や血圧低下、薬剤によるアレルギー等が挙げられます。

ご不明な点やご質問などございましたら医師・スタッフにご遠慮なくお尋ねください。

<印藤内科クリニック>